

米沢興議館 SSH通信

第2号

平成24年7月9日

米興高 SSH 企画部



有機ELと地域産業と経済
・物質と化学

先日（7月6日）、本年度のSSH事業の柱の一つである学校設定教科・科目である「異分野融合サイエンス」（以降、FSと略す）コース別講義・研修の第1回目が終了した。FSコース別講義・研修は、全教科が協働し、地域の科学関連企業やNPO法人などの各種団体、大学や研究機関と連携を図った体験的な実験講座や演習、企業訪問研修等を行う授業である。様々な学問分野を自然科学の切り口によって融合させた10のコースが設けられ、1年生の生徒は、それらのコースから自分の興味・関心の高い分野を選択し、1年間、体験的な学びを経験していくことになる。それでは、その1回目の学びがどのようなものだったのか、それぞれのコースでの生徒の感想から振り返りたい。「有機ELと地域産業と経済」・「物質と化学」

講師 本校物理・化学担当教員

・現代における役立つ学問を学ぶことができ良かった。やはり今の時代は科学の時代だと思うので、さらに学んでいきたい。

・文系希望だが、やはりサイエンスの面白さが分かった。それと同時に難しさも学び、奥深さを改めて知った。

・分からないことや知りたいことを実験によって出すこと

今年度のSSH事業の柱となる異分野融合サイエンス。その第1回目が終了

ができ、その事を目標に様々な試行錯誤によって導き出すことはとても面白いと思った。実際に自分で実験して楽しかった。でも、ちょっと理解できない部分もあって結構難しいと思います。将来につながりそうだし、つながられたらいいです。



法と科学の哲学

法と科学の哲学

講師 東北大学理学研究科 村上祐子 准教授

・サイエンスと言語や裁判の係わりを知り、広範囲な分野だなと思った。少しの言語の違いであっても、意味は正反対であるなど、日頃気をつけて言葉を使っているように思えた。日本と海外の違いも面白いと思ったので、調べてみたい。

・受講前はあまりサイエンスに興味がなく、自分が将来なりたいものにもどのようにつながるかピンと来なかったが、法と科学のつながりを学んではからは文系と理系のどこに共通点があるのか少し見えてきたような気がしました。文系でももっとサイエンスに興味をもつことが大切なのだと感じました。

・前半の部分はコースのテーマとなる法と科学の哲学で、少し難しい部分もありましたが理解できたと思います。科学者のマネージャーという職業もあると聞いたので、現在考えている職業の他にもそのような職業も良いなと感じました。

英語発音と科学

講師 会津大学語学研修センター

イアン・ウィルソン 教授

・今回は1回目のFSでどんなことをするのかとても楽しかったです。実際に講義を受けて、予想していたよりもはるかに楽しくて、この分野についても興味をわきました。自分でもインターネットなどで調べたりしてみたいと思いました。これから1年間頑張りたいです。

・科学に対して苦手意識をもっていたが、今回の講義を受けて「こんな科学もあるんだなあ」と思い、とても楽しく受けられました。次回の講義も楽しみます。

・基本的に英語での講義だったので不安だったけど、大体の内容は理解できて良かったです。「福島の間は『あめ』の発音が同じ」と聞いて驚きました。そういうえば私の両親は同じ気がします。



英語発音と科学

今までの科学や科学技術に係わる経験調査（1学年集計）

	0%	20%	40%	60%	80%	100%
自然の中で遊んだり自然観察した				172		23
疑問解決に向けた行動をした経験			120			72
生活と理科・数学の結びつきを考慮			115			75
授業で説明・発表の機会があった		56				136

□当てはまる □当てはまらない

「当てはまる」と「やや当てはまる」を『当てはまる』にまとめ、「あまり当てはまらない」と「当てはまらない」を『当てはまらない』にまとめた

今回のFS第1回コース別講義・研修直前に、本校生徒を対象とした科学や自然体験に係わる意識調査を行った。右図はそのアンケート結果の一部で、1年生の集計結果である。本地区の地域特性を考えれば、「自然の中で遊んだり自然観察をした経験がある」という質問に対し、9割近い生徒が「当てはまる」「やや当てはまる」という回答をしたのはうなずける。しかし、その後、何らかのアクション（疑問を持ったことを質問する、調べる、結びつけて考える等）をする生徒は6割程度に落ち込み、それらを表現する場面に満たない現状である。これらを踏まえ、SSHを通して様々な力をつけていってほしい。